

**\* 1888年の大子午儀「レプソルド子午儀」の観測野帳を発見**

アーカイブ室新聞 397号に「彗星(ウ氏)比較星観測野帳発見」、第398号に「長崎子午儀観測一」という観測野帳発見」という記事を書いた。これ等の観測野帳の観測記録欄の最上段に、「TRANSIT OBSERVATIONS」と書かれているので子午儀の観測野帳と思われるが、「長崎子午儀観測」が大子午儀で行われたはずはなく、「彗星(ウ氏)比較星観測野帳」には大子午儀で観測された記述はない。

今回は1888年7月17日～1891年5月1日の期間の大子午儀(レプソルド子午儀)の観測野帳と思われる2冊の観測原簿(写真1)を発見した。この観測野帳(観測原簿)のページの最上段には「TRANSIT OBSERVATIONS」と印刷されている。この帳面はかなり虫食いの痕跡(写真2)が残っている。

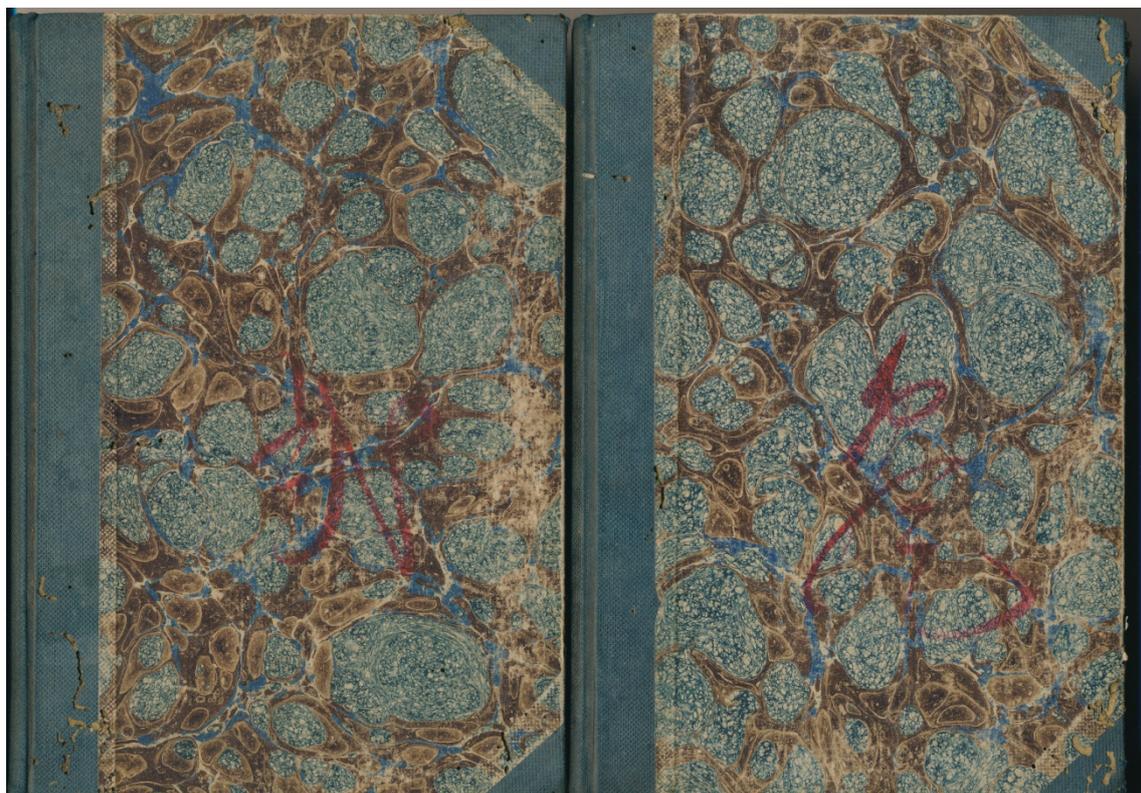


写真1 左の表紙には「弐」、右の表紙には「参」と書かれているように見える

1冊目の表紙には「弐」と書かれ、2冊目には「参」の旧字の「参」と書かれているように見える。なぜ「弐」が旧字の「貳」でないのか疑問が残るがそのように見える。それなら「壹」の旧字の「壹」と書かれた野帳があるはずだがまだ発見されていない。

1冊目の表紙をめくったところには、「千八百八十八年七月十七日より八月十四日まで」(写真2)と記されているように読める。そして最初の観測ページには確かに1888 July 17と記載されており、このページには、赤字で「大子午儀」(写真3)と書かれている。また



この1冊目に赤い字で「大子午儀」と書かれたページは、1888年7月17日の最初のページと、7月19日（と思われる）、7月20日のページのみである。それぞれのページに観測日が書かれているわけではないが、日付のないページは同じ日が続いていたと思われる。1ページに2個の星の観測記録を書くようになっており、

最初の1888年7月17日（3ページ）に観測された天体は、 $\beta$  Libare、 $\nu^1$  Bootes、Jupiter、 $\mu$  Serpentis、 $\varepsilon$  Coronae Borealis、 $\beta$  Scorrpius

7月19日（6ページ）に観測された天体は、 $\beta$  Libare、 $\nu^1$  Bootes、Jupiter、 $\beta$  Serpentis、 $\varepsilon$  Coronae Borealis、 $\beta$  Scorrpius、 $\delta$  Ophiuchus、19 Ursae Minois、Moon、 $\beta$  Hercules、 $\zeta$  Ophiuchus、

7月20日（3ページ）に観測された天体は、 $\mu$  Bootes、 $\nu^1$  Bootes、 $\alpha$  Coronae Borealis、Jupiter、7月26日（7ページ）に観測された天体は、384、390、400、405、412、415、419、420、427、431、444、448、とカタログ番号のような番号で記入された星。

7月27日（7ページ）に観測された天体は、Jupiter、392、394、397、400、405、410、412、415、418、419、420、431、435

7月30日（4ページ）に観測されたのは、257、258、259、260、263、264、268、

8月6日（8ページ）に観測されたのは、Jupiter、223、226、369、76、星の名前のない観測が8個、92、

8月11日（4ページ）に観測されたのは、601、255、602、257、258、259、268、

8月12日（4ページ）に観測されたのは、92、241、483、246、249、253、254、

8月14日（3ページ）に観測されたのは、599、92、244、246、249、253、601と続いている。

2冊目の「蓼」は1888年8月18日（7ページ）から始まっており、1888年8月31日まででは観測の日付の最初に「大子午儀」と朱筆されている。

8月18日に観測された天体は、92、241、244、484、249、255、602、257、258、・・・と続くが、星の名前の欄に、58、44、30などと3つの番号が書かれたりする。続いて337、260、Moon、

1888年8月25日（6ページ）に観測された天体は、263 (110 Herculis)、264 ( $\beta$  Lyrae)、268 ( $\gamma$  Librae)、 $\zeta$  Aquilae、604 ( $\pi$  Sagittarii)、496 ( $\theta$  Lyrae)、273 ( $\tau$  Draconis)、276 ( $\iota$  Cygni)、498 ( $\theta$  Cygni)、277 ( $\gamma$  Aquilae)、280 ( $\alpha$  Aquilae)、

8月31日（6ページ）に観測された天体は、270 ( $\zeta$  Aquilae)、604 ( $\pi$  Sagittarii)、496 ( $\theta$  Lyrae)、273 ( $\tau$  Draco)、275 ( $\beta$  Cygni)、605 ( $\kappa$  Sagittarii)、498 ( $\theta$  Cygni)、276 ( $\delta$  Cgni)、280 ( $\alpha$  Aquilae)、283 ( $\beta$  Aquilae)、286 ( $\gamma$  Sagittarii)

1891年3月7日（2ページ）に観測された天体：20 Navis(?), 31 Lyneis(?),  $\delta$  Ursae Major, Gr1450

1891年5月1日（2ページ）に観測された天体：9 Draconis、33 Sextantis、 $\gamma$  Hydrae

これら2冊の「大子午儀」の観測野帳が発見されたので、すべてのページをスキャナーで読み込み、デジタルデータとして保存した。1888年といえば、東京天文台が正式に発足した年である。